

〔論文〕

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (4)

近 藤 泉

名古屋学院大学国際文化学部

要 旨

本論文は、犯罪映画・ミステリー映画に関し、日本と中国の作品の比較を行う。このテーマについては、日中いずれにおいても先行研究が存在しない。調査するのは2010年～2018年とし、日本・中国とも各年度の興行収入ランキング上位計約40本の作品を調査対象とし、計80本ほどの作品について、58の項目について該当するかどうか一つ一つチェックし、表を作成した。日中の表を比較し、できるかぎり客観的に比較を行う。論文は数回に分け発表、1～3回目前半は表を作成するとともに、日本・中国の各作品を日中比較の視点から簡単に紹介し、3回目以降、作成した表などを使いつつ日中の比較をし、今回は4回目となる。枚数の都合上、Vol.35 No.2に続ける予定である。これにより、日中の映画の比較ができるだけでなく、両国の社会や人々の意識の違いをも見て取れるはずである。考察には適宜2019年以降の作品をも使い、この日中比較は2022年の現在においても成り立つ内容と言える。

キーワード：日中比較，犯罪映画，ミステリー，映画

A comparison of Japanese and Chinese crime and mystery films (4)

Izumi KONDO

Faculty of Intercultural Studies
Nagoya Gakuin University

発行日 2023年3月31日

1. はじめに

1.1

本論文は、日本と中国の犯罪・ミステリー・推理関連映画を比較するものであり、2010年～2018年の9年間に公開された映画を中心に比較する。

日中の比較にできる限り客観性を持たせるため、中国の作品としては、中国における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング（大陸以外・外国の作品を含むランキング）上位100位までに入った犯罪関連映画37本、日本の作品としては、日本における2010～2018年にかけての毎年度の興行成績ランキング（外国の作品を含むランキング）上位30位までに入った犯罪関連映画43本を取り上げ、両国合わせて計80本映画により日中の比較を行う。

また、本論文で扱う中国映画は、大陸の映画に限定する。香港映画にも警官・警察や犯罪組織などが登場する映画は多いが、そうした大陸以外の映画は含まない。なお、大陸と香港の合作（そもそも、1997年に香港が中国に返還されてから、香港映画は大陸資本に依存するようになり、また香港映画界の人材が大陸に活躍の場を求め、大陸と香港の境が不分明になっているが。）、中国と外国の合作などの場合には、基本的にはとりあえず監督が中国（大陸）の監督である場合のみ、中国（大陸）の作品として本論文で取り上げた。

「犯罪・ミステリー映画の日中比較（1）」「犯罪・ミステリー映画の日中比較（2）」において明示し忘れ、大変申し訳ないが、本論文「犯罪・ミステリー映画の日中比較」においては、中国映画は基本的には中華人民共和国成立後を舞台とする作品、日本映画は戦後を舞台とする作品のみについて扱った。したがって、前近代を舞台とする時代物・歴史物、民国時代の戦争や内戦の時代を背景とするものなどは、除外されている。

なお、本論文は日中の映画の比較をし、その違いを明らかにするものであるが、日中の違いと言っても、傾向としての違いが明確に見て取れれば、それを違いとして取り上げる。中国のミステリー・推理ものは、そもそも欧米や日本など海外の作品の影響を大きく受けている。中国では、小説においては、1980年代以来日本の推理小説は人気があったし、2010年代、特にその後半には、東野圭吾の人气が極めて高く、またそれ以外の日本のミステリー作家の作品も多く翻訳されて読まれている。また、アニメでは例えば名探偵コナンなどの推理もののアニメもよく見られている。また、小説をはじめとして、日本・中国とも欧米の影響をも受けている。中国と日本のミステリー作品が全く懸け離れたものであるということはない。ただ、日中の作品に傾向としての違いは確実に存在しており、本論文はそれを明らかにしようとするものである。

本テーマについては、日中いずれにおいても、先行研究が存在しない。

ページ数の都合により、論文は数回に分け発表、1回目は中国の作品に関する部分を掲載し、2回目～3回目前半は日本の作品に関する部分を掲載、3回目から、作成した表などを使いつつ日中の比較をし、4回目の今回はその続きを掲載する。枚数の都合上、今回で終わりとせず、日中の比較はVol.35 No.2に続けることとする。これにより、日中の映画の比較ができることはもとより、両国の社会や人々の意識の違いをも見て取ることができるはずである。

なお、本論文においては、考察の際、適宜2019年以降の作品についても触れることとする。本論文で指摘する日中の作品の違いは、基本的に2022年の現在においても存在するものと考えられる。

1.2 日本映画と中国映画の表について

『名古屋学院大学論集（言語・文化篇）』Vol.31, No.2において、中国の2010年から2018年にかけての毎年度の興行成績ランキングの上位（外国映画・香港映画・台湾映画をも含む上位100位までに入るもの）の犯罪関連映画計37本について、以下の58項目についてチェックし、表を作成した。

- 1 探偵が登場する。
- 2 探偵が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 3 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。
- 4 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 5 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。
- 6 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。自国を舞台とする作に限定。
- 7 プロの探偵が華麗に推理する。
- 8 プロの探偵が華麗に推理する。自国を舞台とする作に限定。
- 9 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）
- 10 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。自国を舞台とする作に限定。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）
- 11 推理・謎解きが重要な要素の本格推理。
- 12 視聴者は最初から犯人を知っている。
- 13 探偵・探偵役の人物ないし警察官が、皆の前で推理した内容を披露する。（推理内容が正しい、ないしほとんど正しい場合は◎。間違った推理が披露された場合も、正しい推理内容を推理する場面が後にあれば◎。）
- 14 警察官が主人公であったり警察組織を描いたりするなどの警察もの。
- 15 警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）
- 16 警察組織の問題点に触れている。
- 17 警察と犯罪組織の対立、ないし警察による犯罪組織摘発をメインに描いている。
- 18 犯人を追い詰める警官や探偵などの心の苦しみを描く。
- 19 犯人の善良な面をも十分描いている。
- 20 犯人の苦しみを十分描いている。
- 21 犯罪者の内面に目を向け、犯罪に至らざるを得なかった過程を十分に描いている。

- 22 犯人が主人公。(犯人の立場から描く。)
- 23 無実の人物が、他人を庇い、その身代わりとなって、自分が犯人だと偽りの自首をする。
- 24 社会性のある題材を扱い、犯罪が起きた社会的背景をもしっかり描いている。
- 25 犯人に意外性がある。
- 26 犯罪方法やトリックに意外性がある。
- 27 凶器に意外性がある。
- 28 意外性が、犯人が誰であるかや、犯罪方法のトリックや特殊性以外にある。
- 29 犯罪が残酷、ないし猟奇的。サイコ性がある。
- 30 不気味、ないしホラー性がある。
- 31 連続殺人事件。
- 32 密室殺人事件。
- 33 科学的鑑定の場面がある。(プロファイラー以外)
- 34 プロファイラーが登場。
- 35 犯人が精神障害。
- 36 快楽殺人・快楽犯罪(殺人未遂を含む)。
- 37 ゲーム的殺人・犯罪や、劇場型の殺人・犯罪。(殺人未遂を含む)
- 38 怨恨や復讐のための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 39 他人への妬みないし社会的疎外感による殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 40 男女間の愛のもつれにより相手に行う殺人や犯罪(殺人未遂を含む)。
- 41 金銭ないし地位目当ての殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。
- 42 口封じのための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。(自分の犯罪以外について他人に知られないための口封じをも含む。)
- 43 自分自身の欲望のためではなく、社会をよくする、ないし悪くしないためと考えての殺人・犯罪。
- 44 自分自身の欲望のためではなく、自分以外の誰かのための殺人・犯罪。(復讐は含めない。)
- 45 誘拐や監禁。
- 46 麻薬の売買。
- 47 企業・ビジネスがらみの犯罪を描いている。
- 48 テロリストによるテロ。
- 49 犯罪動機にオリジナル性。
- 50 他殺はなかった。(自殺、事故、未遂、その他のみ)
- 51 毒物の知識など実際の犯罪に役立てられそうな情報が入っている。
- 52 アクションが重要な要素として存在。
- 53 法廷推理もの。
- 54 スパイもの。(警官による潜入捜査は含まず。)
- 55 警官による潜入捜査がある。

56 トラベルミステリ。観光地・景勝地での旅情もの。

57 時刻表もの。

58 コメディ性がある。

中国の犯罪映画の表は、以下の通りであった。(表中の○・×などは、判断に主観の入らざるを得ない微妙なものもあり、絶対的に客観的に正しいものというのではなく、あらましの目安である。)

表 1

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲
年度	2018					2017					2016					2015					2014	2013	2012					2011					2010				
大陸年度興行収入ランキングベスト100中、大陸制作作品（中国大陸以外との合作の場合、大陸の監督の制作によるものに限る。）の本数	32					37					30					40					40	23	25					33					30				
順位	二	四〇	四一	九八	九九	四四	五〇	五一	六〇	七九	四〇	九四	九七	一一	一三	四五	八九	九二	二七	三七	四三	六八	七八	九八	三八	七六	九四	九七	九八	三二	四六	六一	八〇				
映画名	唐人街探案2	“大”人物	幕后玩家	江湖儿女	龙虾刑警	(机器之血：SF)	心理罪	记忆大师：SFでもある。	(解忧杂货店：日本原作) 心理罪城市之光	绑架者	火锅英雄	追凶者也	惊天大逆转	捉迷藏	老炮儿	唐人街探案	烈日灼心	解救吾先生	黑猫警长之翡翠之星：アニメ	白日焰火	笔仙惊魂3	无人区	全民目击	二次曝光	HOLD住爱	边境风云	笔仙惊魂	孤岛惊魂	硬汉2泰隆到底	床下有人	B区32号	密室之不可告人	决战刹马镇	黑猫警长：アニメ			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲		
1	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
2	/	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
3	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ 推理小説作家	×	×	×	×	○ 推理小説作家	×		
4	/	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ 同上	×	×	×	×	×	○ 同上	×		
5	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
6	/	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
7	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×? 別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	△別記	×	
8	/	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	/	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△ 同上	×	×	×	×	×	△ 同上	×		

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
9	×	◎別記	△	△	◎別記	◎別記	◎?別記	◎	×	×	△	◎?別記	◎	◎別記	△	×	×	◎別記	◎別記	◎?別記	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	
10	/	◎同上	△	△	◎同上	/	◎	/	◎	×	△	◎?同上	／韓国が舞台	◎同上	△	△	/	◎	◎同上	◎同上	◎同上	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
11	◎	×	×	×	×	△	△	△	×	×	×	×	△別記	×	×	◎	×	×	△	△	△	×	△	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎	×
12	×	○	×	×	△別記	○	×	×	×	○	×	△	×	×	×	○	×	△別記	○	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	○	
13	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	◎別記	×	
14	×	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	◎別記	×	×	×	×	◎別記	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	
15	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
16	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
17	×	×別記	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
18	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
19	×	×別記	×	○	×	×別記	×	×	×	◎	×	×	△別記	×	×	×	×	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
20	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
21	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
22	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	△別記	×	×
23	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
24	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
25	◎	×	○	×	△別記	×	×	◎別記	×	×	○	×	△別記	◎別記	○	◎	◎別記	×	×	×	△	×	○	△別記	×	×	×	×	○	◎	×	○	×	◎別記	×	
26	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	△	×	
27	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	
28	×	×	×	×	×	×	×	○	○	◎	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	◎別記	×	△別記	△別記	△別記	◎別記	◎別記	×	×	×	◎別記	×	×	×
29	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
30	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	◎	◎	×	×	○	◎	×	×	○	×
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	
31	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	
32	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (4)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	
33	○	×	×	×	×	○	×	△	×	×	×	△	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	△	
34	○	×	×	×	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
35	×	×	×	×	×	○	×	△	×	×	×	×	×	○	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	△	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
36	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
37	×	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
38	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	別記	×	○	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	
39	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
40	×	×	×	×	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	別記	×	△	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	
41	×	別記	○	×	○麻薬売買	△別記	×	×	×	別記	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	別記	○	別記	×	○	×	×	×	○	○	×	別記
42	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	別記	○未遂	○	別記	○	×	×	×	別記	×	×	×	○	別記	×	×	別記	×	
43	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	○	別記	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
44	×	×	×	○	×	×	×	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	別記	×	×	○	別記	×	×	×	×	×	
45	×	別記	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	
46	×	△別記	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
47	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
48	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
49	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
50	×	別記	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	別記	○	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	
51	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	△別記	×	×	△別記	△別記	×	×	×	×	×	
52	×	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	△	×	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	△	○	×	×	×	△	×	○	
53	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
54	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
55	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
56	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
57	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
58	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

日本の犯罪映画の表は、以下の通りであった。

表 2

[illegible]

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (4)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿										
8	△?同上	×	×	×	△?同上	×	×	×	×	×	×	△?同上	×	△?同上	△(△)?同上	×	×	×	△同上	△同上	△同上	×	×	×	×	×	×	△同上	×	△?同上	×	×	×	×	×	△?同上	/	×	×	×	△?同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上	△同上							
9	○別記	△	○	○別記	×別記	×?別記	○	○別記	○	別記	(○)別記	×別記	○	×別記	○別記	×別記	○別記	○別記	○別記	×別記	?別記	×別記	×	別記	○	△別記	△別記	別記	×別記	△	○別記	×別記	?別記	△別記	○別記	○別記	○SP	○	○別記	○別記	○	△	○SP	×別記	×別記	△	△	×別記	×別記	×別記	×別記	×別記								
10	○別記	△	○	○別記	×別記	×?別記	○	○別記	○	別記	○別記	×別記	○別記	×別記	○別記	/	○別記	○別記	/	別記	?別記	×別記	×	別記	○	△別記	別記	別記	×別記	○別記	△	○別記	?別記	△	△	○別記	△SP	×	○別記	/	○	△	○SP	×別記	×別記	△	△	×別記	×別記	×別記	×別記	×別記								
11	○	×	×	×	○	×	△(△)	×	×	×	×	△(△)	×	×	△(△)	×	×	×	◎	◎	○	◎	◎	△	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎										
12	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
13	×	×	×	×	◎	×	◎	×	×	×	×	◎別記	×	×別記	×	×	×	◎	◎	◎	◎別記	△別記(○)?	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	○	◎別記	◎別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎								
14	×	別記	×	×	×	○	○	×	△別記	○	別記	×	○	×	×	×	○別記	○	○	×	×	×	○	○別記	○	○	○	○別記	○	○	○別記	×	×	×	○SP	×	○別記	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
15	△別記	別記	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
16	◎別記	別記	×	×	×	×	○	×	×	◎	×	×	◎	×	×	×	×	△(△)別記	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	△別記	○	×	×	×	×	×	×	◎	×	◎別記	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
17	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○別記	○	○	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×						
18	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
19	○	△(△)別記	×	×	×	×	○別記	◎別記	×	×	×	○	×	△別記	△(△)別記	×	×	×	○	×	○	○	○別記	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	△別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記	◎別記								
20	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
21	○	△(△)別記	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	△	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	△								
22	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
23	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	◎仙波	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
24	○	○	×	△(△)	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
25	○	×	×	○	◎別記	○	×	○別記	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	△	○別記	○	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	△別記	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
26	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×								
27	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
28	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○別記	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×						
29	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							
30	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
31	×	×	○	×	○	○	△	○	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○						
32	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
33	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△別記	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
34	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿							
35	×	×	△	×	×	○PTSD	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
36	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
37	×	×	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△							
38	○	○別記	○別記	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	○別記	○別記	×	×	○	×	×	○別記	×	○	○別記	○別記	×	×	○別記	○別記	×	○	△	×	×	○別記	○別記	×	○	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△						
39	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○?別記	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
40	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
41	×	△?別記	○	○別記	△別記	×	×	×	×	○別記	×	×	△別記	○	×	○	○	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○						
42	×	○別記	×	×	○別記	×	×	○	×	×	○	×	○	×	×	×	○別記	×	○別記	○別記	○別記	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
43	○	○別記	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×	○別記	×	×	×	○別記	○別記	×	×	×	○?別記	○別記	×	○別記	○別記	×	×	○	×	○?別記	×	×	○	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×						
44	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
45	×	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×				
46	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
47	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
48	○	×	×	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	○	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×					
49	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
50	×	×	×	○別記	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
51	×	×	△別記	×	×	×	△別記	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
52	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	△	○	×	○	×	×	×	○	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
53	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
54	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
55	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
56	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
57	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
58	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	△	○	×	○	×	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

1.3 日中の表の比較

以下の表3の日中映画比較表は、日中比較のための表であり、表1と表2から作成したものである。

表3の表中の数字は、パーセンテージ。

◎?は◎, ○?は○, △?は△, ×?は×, として計算。

○(△)の類は、○として計算。(例えば、△(×)は、△として計算。)

／〔／だけしかかかれていないもの〕と ?〔?だけしかかかれていないもの〕は、ないものと

犯罪・ミステリー映画の日中比較 (4)

して数えず。パーセンテージを計算する時、分母・分子に入れない。

〈○〉 だけしか書かれていないものは、○として計算。

表3 日中映画比較表

	中国				日本			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
1 探偵が登場する。	0	5	0	95	0	26	2	72
2 探偵が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	0	100	0	26	2	71
3 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。	0	10	0	90	0	37	2	60
4 探偵ないし探偵的な役割を果たす人物（警官以外）が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	6	0	94	0	36	2	62
5 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。	0	3	0	97	0	12	0	89
6 名探偵ないし名探偵的な役柄の人物の引き立て役となる無能な警官が登場する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	0	100	0	10	0	88
7 プロの探偵が華麗に推理する。	0	0	8	92	0	30	0	70
8 プロの探偵が華麗に推理する。自国を舞台とする作に限定。	0	0	6	94	0	31	0	69
9 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）	19	36	36	8	0	50	16	34
10 警官が無能と言うわけではない、ないし頭脳明晰。自国を舞台とする作に限定。（警官がそもそも、ほとんどないし全く登場しない場合は△。）	23	32	42	3	0	52	17	31
11 推理・謎解きが重要な要素の本格推理。	10	5	16	68	7	16	5	72
12 視聴者は最初から犯人を知っている。	0	30	8	62	0	19	0	81
13 探偵・探偵役の人物ないし警察官が、皆の前で推理した内容を披露する。（推理内容が正しい、ないしほとんど正しい場合は◎。間違った推理が披露された場合も、正しい推理内容を推理する場面が後にあれば◎。）	3	3	3	92	21	5	7	67
14 警察官が主人公であったり警察組織を描いたりするなどの警察ものの。	0	30	0	70	0	42	2	56
15 警察官が犯人である。（警察官以外も犯人である場合を含む。）	0	5	3	92	2	9	7	81
16 警察組織の問題点に触れている。	0	0	0	100	14	12	2	72
17 警察と犯罪組織の対立、ないし警察による犯罪組織摘発をメインに描いている。	0	14	0	86	0	7	7	86
18 犯人を追い詰める警官や探偵などの心の苦しみを描く。	0	3	0	97	0	0	2	98
19 犯人の善良な面をも十分描いている。	5	8	0	86	5	16	14	65
20 犯人の苦しみを十分描いている。	0	3	0	97	0	5	5	91
21 犯罪者の内面に目を向け、犯罪に至らざるを得なかった過程を十分に描いている。	0	3	6	92	2	12	12	74
22 犯人が主人公。（犯人の立場から描く。）	0	8	11	81	0	9	0	91
23 無実の人物が、他人を庇い、その身代わりとなって、自分が犯人だと偽りの自首をする。	0	0	3	97	0	2	2	95
24 社会性のある題材を扱い、犯罪が起きた社会的背景をもしっかり描いている。	0	0	0	100	9	0	5	86
25 犯人に意外性がある。	14	19	14	54	2	23	9	65
26 犯罪方法やトリックに意外性がある。	0	5	5	89	0	7	5	88

	中国				日本			
27 凶器に意外性がある。	0	0	3	97	0	2	0	98
28 意外性が、犯人が誰であるかや、犯罪方法のトリックや特殊性以外にある。	3	19	8	70	0	16	0	84
29 犯罪が残酷、ないし猟奇的。サイコ性がある。	0	8	0	92	0	5	0	95
30 不気味、ないしホラー性がある。	11	5	0	84	0	0	0	100
31 連続殺人事件。	0	19	0	81	0	26	2	72
32 密室殺人事件。	0	8	0	92	0	0	0	0
33 科学的鑑定の場面がある。(プロファイラー以外)	0	8	8	84	0	14	2	84
34 プロファイラーが登場。	5	3	0	92	0	2	0	98
35 犯人が精神障害。	0	8	5	86	0	7	2	91
36 快楽殺人・快楽犯罪(殺人未遂を含む)。	0	0	0	100	0	5	0	95
37 ゲーム的殺人・犯罪や、劇場型の殺人・犯罪。(殺人未遂を含む)。	0	8	0	92	0	12	2	86
38 怨恨や復讐のための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	3	3	95	0	42	2	56
39 他人への妬みないし社会的疎外感による殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	3	0	97	0	2	2	95
40 男女間の愛のもつれにより相手に行う殺人や犯罪(殺人未遂を含む)。	0	5	3	92	0	2	0	98
41 金銭ないし地位目当ての殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。	0	49	3	49	0	30	5	65
42 口封じのための殺人・犯罪(殺人未遂を含む)。(自分の犯罪以外について他人に知られないための口封じをも含む)。	0	24	0	76	0	26	0	74
43 自分自身の欲望のためではなく、社会をよくする、ないし悪くしないためと考へての殺人・犯罪。	0	3	3	95	0	37	0	63
44 自分自身の欲望のためではなく、自分以外の誰かのための殺人・犯罪。(復讐は含めない)。	0	8	3	89	0	5	0	95
45 誘拐や監禁。	0	35	0	65	0	19	0	81
46 麻薬の売買。	0	5	3	92	0	5	0	95
47 企業・ビジネスがらみの犯罪を描いている。	0	5	0	95	0	5	0	95
48 テロリストによるテロ。	0	0	0	100	0	21	5	74
49 犯罪動機にオリジナル性。	0	5	0	95	0	2	0	98
50 他殺はなかった。(自殺、事故、未遂、その他のみ)	0	19	0	81	0	7	0	93
51 毒物の知識など実際の犯罪に役立てられそうな情報が入っている。	0	0	14	86	0	5	0	95
52 アクションが重要な要素として存在。	0	46	8	46	0	49	2	49
53 法廷推理もの。	5	0	0	95	0	2	0	98
54 スパイもの。(警官による潜入捜査は含まず)。	0	0	0	100	0	5	0	95
55 警官による潜入捜査がある。	0	0	0	100	0	2	0	98
56 トラベルミステリ。観光地・景勝地での旅情もの。	0	0	0	100	0	0	0	100
57 時刻表もの。	0	0	0	100	0	0	0	100
58 コメディ性がある。	0	16	0	84	0	12	5	84

日中の犯罪・推理小説の比較であるが、そもそも中国の推理ものも、欧米・日本の影響を強く受けている。日中の犯罪もの・推理ものの映画に傾向としての違いはあっても、その違いは必ずしも絶対的なものであるとは限らず、傾向としての違いであるということは、日中比較の本論文の

前提としてあらかじめ断っておく。また、本論文で言う中国の作品とは大陸の作品に限定することも再度確認しておきたい。

2. 本論（「犯罪・ミステリー映画の日中比較（3）」の本論の続き）

2.4.4. 警察組織の問題に触れているか

日中映画比較表16「警察組織の問題点に触れている。」について言うと、中国映画は◎0% ○0% ×100%、日本映画は○14% ○12% ×72%である。

中国映画が警察組織の問題を描くことを極力避けようとしているということが明確に見て取れる。「犯罪・ミステリー映画の日中比較（3）」の2.4.3.2に述べた内容からも、そのことが見て取れる、と言うことができよう。その「犯罪・ミステリー映画の日中比較（3）」の2.4.3.1及び2.4.3.2において触れた中国の映画基準についての規定「电影剧本〈梗概〉备案，电影片管理规定」の条項「十四，映画に以下に列举した内容があれば，削除して修正すべきである。：（电影片有下列情形，应删剪修改：）……（二）恶意をもって人民軍隊・武装警察・公安及び司法のイメージを損ねるもの：（恶意贬损人民军队，武装警察，公安和司法形象的；）」が中国における映画制作に大きな影響を与えていることがうかがえる。

一方、日本映画で警察組織や政府などを批判的に描く作品は少なくない。

例えば、以下の作品に警察・政府批判につながるような内容が描かれている。

① 名探偵コナン・ゼロの執行人

警察による違法捜査，証拠隠滅，無実の人間を犯人に仕立てる，他機関（検察）に不当な圧力をかける，など（これらには，幹部クラスが関わっている。）

⑦ 相棒—劇場版IV—首都クライシス 人質は50万人！ 特命係 最後の決断

政府・警察の高官たちが自らの責任を回避し保身を図る

⑩ 64—ロクヨン—前編

警察における理不尽な上層部からの圧力と命令，上層部の下位の者に対する傲慢な姿勢，下位の者の上層部への忖度，不都合な情報の隠蔽，上司に命じられてする汚れ仕事，警察内部における組織間対立，など

⑬ アンフェア the end

警察・検察・裁判所が組んでの組織ぐるみでの情報隠蔽，証拠を捏造して自分たちにとって邪魔な人物を犯罪者に仕立てる，犯罪者を故意に無罪とさせる，口封じのため殺人を行う，監視システムにより，国民，とりわけ権力に盾突こうとする者を監視する，など

②④ プラチナデータ

官僚・政治家・警察上層部たち本人とその家族ら国家権力の上層部についてのみその犯罪が隠蔽されるシステム，警察による不都合な情報の隠蔽，所属する警官たちに不条理な方針にも従わ

せようとする不条理な警察組織，国家による管理社会化・監視社会化，など

㊥ ストロベリーナイト

警察による情報の隠蔽，上層部からの不条理な圧力で容疑者を調べられなくなる，隠蔽のため捜査方針を故意に歪める，捜査の誤りに気づいても誤りを隠すため容疑者をそのまま送検する，警察組織・警察官の自己保身，正義にもとる上層部への忖度，警察内部での組織間対立，不正をして懲戒処分になる警察官，懲戒処分になった休みを使いキャバクラ嬢たちと旅行に行く警察官，警察官がセクハラともいえる話を平気でする，など

㊦ 葉の楯

懸賞金に目が眩み，一般国民だけでなく，警官・機動隊員・警視庁上層部に至るまで，護送すべき人物の命を狙うものが次々に現れる，など

㊧ 踊る大捜査線 THE FINAL

署内の権力争い，警視庁・所轄署間の綱引き・対立，警察内部の謀略により，本来責任もないのに危うく辞職させられそうになる警察官，警察組織の厳格なキャリア制度の問題（現場と上層部の間の深い溝，本庁と所轄の対立），官僚主義の問題，幹部を含む警官が見苦しく自己の保身を図る，嘘をついて自分の責任を責任のないはずの他の警官に押し付ける，不都合な情報を隠蔽する，無実の人物を故意に犯人にでっちあげる，幹部などの警察官が真実を調べようとする警官を故意かつ不当に陥れる，警察が偽りの「事実」を捏造する，警視庁幹部が所轄署捜査員を不当に捜査から排除するなど所轄署に対し傲慢で理不尽な姿勢をとる，不条理な命令を下位の者に下す，など

㊨ 相棒—劇場版Ⅱ— 警視庁占拠！特命係の一番長い夜

にせのテロ事件を自作自演で捏造して公安部の存在意義を示そうとする，警視庁に表に出せない公安案件を扱う「影の管理官」が存在する，警視総監以下12名の警視庁幹部が警視庁に対する内部告発文を握りつぶす，警察幹部が都合が悪い人物を口封じのため殺害する，警察組織内での主導権争い，下の者に対しては非常に失礼な強圧的な話し方をする一方，自分より上の者に対しては腰が引けて言うべきことも言わない警察幹部，恨みから殺人を犯す警察幹部，警官に嘘の供述をさせる監察官，立場を利用して罪のもみ消しなどを行う警察幹部，など

㊩ アンダルシア 女神の報復

内部告発しようとした警官を左遷させる，犯罪の組織的な隠蔽（国のトップの総理大臣や警察幹部・外務省までもが犯罪を隠蔽しようとする，警察上層部からの圧力，総理大臣や警察幹部などの自己保身，自分だけの判断では動くことのできぬ組織の単なる一員としての警察官などの公務員，など

㊪ 踊る大捜査線 THE MOVIE3

自己保身のために責任逃れをする無能で無責任な所轄幹部の警官たち，所轄署を下に見る警視庁（強圧的な警視庁上層部），警視庁と所轄署の間の対立，など

なお，「犯罪・ミステリー映画の日中比較（3）」の2.4.3.2において触れたように，今回の調査

対象作品ではなく映画でもないが、例えば2018年の中国ドラマ「破冰行動(ドラッグ・ウォーズ)」や2020年の中国ドラマ「沈黙的真相(ロング・ナイト 沈黙的真相)」には、犯罪に関わる警官が出てくる。警察組織の問題に触れているとも言える。しかし、同上の箇所において述べたように、両作品とも警察の素晴らしさもよく伝わってくる作品で、警察への不信感が増幅されるような作品ではないと思われるし、日中の映画を総体として比較するならば、中国映画は、警官を正義感に満ちた立派な存在として描く傾向が強いという点において、日本映画とかなり差があるように思われる。全体として言う、日本の映像作品は中国のそれと比べ、警察組織や政府などを批判的に描く作品が明らかに目立っている。

2.4.5 (2.4.3～2.4.4) 全般について(警官・警察組織を能力・モラル等の面で素晴らしいものとして描くか:全般)

中国の犯罪・ミステリー系映像作品も、非常に明確なまでに英雄的な警官や警察を描くものばかりではないが、しかし、中国の犯罪・ミステリー系映像作品は、日本の作品と比べると、明らかにそうした作品が目立ち、また、自国の無能な警官やモラルや正義感に問題のある警官、警察組織の問題点などを描く映像作品は、ほとんどない、ないし日本と比べて極めて少ないということができる。

2.4.6 警察官が組織の一員として悩む

日本の映画では、警察官が組織の一員として上部からの圧力など人間関係の中で悩む作品は少なく、今回の調査範囲の中で言うと、例えば「64——ロクヨン——前編」「プラチナデータ」「ストロベリーナイト」「踊る大捜査線 THE FINAL」「アンダルシア 女神の報復」「踊る大捜査線 THE MOVIE3」などがそれに該当する。

また、「空飛ぶタイヤ」「HERO」において、組織の一員として悩むのは警官ではないが(前者は会社員、後者は検察官である。)、主人公ないし重要な登場人物が組織の一員として悩むという点では共通している。

組織の中で悩む警官などを描くのは、上記のように、日本映画にはしばしば見られるものであるが、中国映画においてはあまり見られるものではない。これには、中国映画は政治的制約、直接的には映画審査制度により、警察組織のイメージを悪意をもって描くことが許されていない、という面(2.4.4参照)が関係しているであろうし、また、中国は日本ほどには周囲の空気を読みそれに合わせる事が強く要求される社会ではない(そもそも、「空気を読む」という表現そのものが日本独特の表現であるが。)、といった面なども関係しているのではなかろうか。

2.4.7 探偵ないし探偵的役柄の人物(警察官以外)の活躍を描くか

日本や欧米でも、刑事事件を捜査して解決に導くのは、現実には基本的には警察である。しかし、欧米では、エドガー・アラン・ポーのC・オーギュスト・デュパン(ポーの小説『モルグ街の殺人』『マリー・ロジェの謎』『盗まれた手紙』に登場する架空の人物で、世界初の名探偵¹⁾とされる。)

の登場する小説において、探偵が事件を解決するというストーリーのパターンが生まれ、それ以降、例えばコナン・ドイルのシャーロック・ホームズなどの探偵や探偵的役割の人物が事件を解決するというストーリーが多く生まれ、そうしたストーリーのパターンが確立している。日本でも欧米の影響のもと、推理小説が生まれ、江戸川乱歩の推理小説に登場する明智小五郎において、以後に非常に大きな影響力をもつ名探偵が確立し、以後、横溝正史の金田一耕助をはじめとする名探偵（更には、職業的探偵ではないが、高木彬光の神津恭介をはじめとする非常に多くの探偵的役柄の人物）が事件を解決に導く小説が数多く書かれていく。（なお、明治期の須藤南翠の『殺人犯』〔1888〕が日本最初の創作探偵小説とされることがあるが、『殺人犯』の探偵は素人探偵であり、また事件の解決にも失敗している²⁾。翻訳探偵小説でも有名な黒岩涙香により『無惨』がその翌年に書かれており、この作品が日本の創作探偵小説の嚆矢とされることもあるが、「探偵」とされる大輅・谷間田は警官〔私服捜査員〕である³⁾。）

中国においては、中華民国期にも、欧米の影響を受け、名探偵・霍桑の活躍を描く程小青（1893-1976）の小説など名探偵を描く小説が書かれたが、1949年の中華人民共和国成立後は、社会の激変の中、旧来の探偵小説は影を潜め、ソ連の反スパイ小説の影響を強く受けた反特小説（反スパイ小説。「特」は「特務」つまりスパイ。公安・警察が活躍する。）が多く出版されるようになり、やがて文化大革命でそうした小説も発表できなくなる。文革終了後、80年代には中国でも、旧来の本格推理小説や、日本の社会派推理小説など日本のミステリを含めた海外の多くの推理小説が翻訳されるようになり、また中国でも多様な推理小説が書かれるようになるが、老蔡（2009）によれば、文革終結後の20年間、推理小説専門雑誌はなく、単行本やアンソロジー以外では、ミステリの発表の場は警察機構のもとにある雑誌しかなかった。そのため、中国ミステリは確かに多様化はしつつあったものの、公安法制小説がその大部分を占めた。公安法制小説とは、中国に私立探偵が存在できなくなった1949年以降の中国ミステリを称してこのように言う場合があり、警察官などの公的機関に属する主人公が、法律や制度に基づいて犯罪を捜査するタイプの小説のことである⁴⁾。

21世紀、そして2010年台になり、中国のミステリはより発展し、多様化するが、2010年代においても（そして2020年代初頭の現在においても）、共産党統治下の中華人民共和国の時代の中国を舞台とした作品で、職業的探偵が捜査能力に問題のある無能な警察を差し置いて事件を解決するという作品は見られない⁵⁾。

中国のオンライン百科事典である「百度百科」の「私家偵探（つまり私立探偵）」の項目には、以下のように書かれている⁶⁾。

私立探偵（民間の民事・商事の事務調査サービスに従事する者）

私立探偵とは、政府機関以外で民事・商事の事務調査サービスに従事する者を指す。その業務内容は、財産について調査し証拠を得ること、全国でのデータ調査、人の行方調査、ネット詐欺調査、婚姻調査を主とする。わが国では、いまだいかなる法律も私立探偵の法的地位を確立させ

ていない、そのため、私立探偵は、一般公民の合法的な知る権利を行使するだけである。私立探偵は刑事事件の捜査活動に関わることはできない。わが国の法律は、国家機関の特定の職務の者だけが刑事事件の捜査権を有すると規定している。

つまり、中華人民共和国においては、私立探偵は法的地位を有しておらず、刑事捜査活動に関わることはできない。中国（大陸）の法律は、国家機関の特定の人員のみが刑事事件の捜査権を有すると規定している。

また、法律上の疑問に弁護士たちが回答する中国のサイト「普法網」において、2021年7月2日、「私立探偵は違法ですか？」という質問がされており⁷⁾、弁護士はそれに対し以下のように回答している。

私立探偵は、政府機関以外で民事・商事の事務調査サービスに従事する者を指す。……（中略）……中国の私立探偵は法的地位を有しているわけではなく、目下まだ、工商部門の交付した営業免許をとれた私立探偵会社は一つもない。訴訟法中にも、公民個人が「捜査権」を持つという規定はない。1993年、公安部は『『私立探偵』の性質の民間組織を開業することを禁止することに関する通知』を公布した。国の法律との衝突を回避する必要がある、私立探偵はずっと法律の縁を歩み、隙間において生存してきた。

なお、日本でも探偵業は特別の資格を必要とする業務ではないが、探偵業を開業する場合、警察署を通し公安委員会に届け出を行い、探偵業届出証明書の発行をしてもらい、それにより営業する事が可能となる。（「探偵業の業務の適正化に関する法律」〈2006年制定〉第四条）また、「探偵業をできない欠格事由なども法的に定められている。（「探偵業の業務の適正化に関する法律」第三条）探偵は法的地位を有していると言える。もちろん、日本においても、探偵が警察等の持つような刑事捜査権が与えられているというわけではないことは言うまでもないが、日本では少なくとも、そもそも「探偵業の業務の適正化に関する法律」が制定される以前においても、「私立探偵は違法か？」などという質問がよくされるような、私立探偵そのものの存在が合法かと疑われるような社会ではなかったし、私立探偵の開業が政府通達により禁止されるといったこともなかった。当然そこには日中の社会体制・政治体制の違いが背景にあると言えるであろう。

中国（大陸）においては、こうしたことから、その映画やドラマにおいても、共産党統治下の中華人民共和国の時代の中国（大陸）を舞台とした作品で、プロの探偵が事件を解決するという作品は見られないわけである。（もしそうした作品の存在が許されるようであれば、それは警察の権威を傷つけ、その捜査に異議を差しはさみかねないものになってしまう、と考えられていると思われる。）

2010年代の映画について言うと、2015年の映画「唐人街探案(1)」・2018年の映画「唐人街探案2」

の主人公の探偵・秦風（1においては、探偵としての役柄は果たすが、職業的な意味での探偵ではない。2においては、やはり生業としての探偵ではないが、探偵として社会的に認められている。〔ちなみに2021年の「唐人街探索3」では、職業としての探偵業を営んでいるかは不明だが、依頼者から事件の解決を請け負い大金を稼ぐようになっている。〕）は、無能な警察を差し置いて事件を鮮やかに解明するが、舞台は外国（1ではタイ、2では米国。ちなみに、2021年の3では日本）である。

また、この論文の調査対象とする時期（2010年～2018年まで）の映画ではないが、プロの探偵が活躍する以下のような作品もある。いずれも、民国期の中国を舞台とした作であり、共産党統治下の中華人民共和国時代の中国（大陸）を舞台とした作ではない。

2010年のドラマ『唐琅探案』は、警官を辞めざるを得なくなった唐琅が、私立探偵事務所を立ち上げ（第6集）、優れた推理能力でもって、探偵として事件解決に活躍するコメディータッチのサスペンスドラマである。民国期の上海を舞台としている。

2016年のドラマ『煮婦神探（煮婦神探）』は、コメディータッチで描かれた刑事・探偵ものの推理ドラマ。主婦である苟吉祥は、夫を失ってから巡捕（当時の租界における警官）となり、巡捕の毛儒毅とともに事件を解決していく。やがて巡捕房（租界における警察署）を去り、私立探偵事務所を設立（毛儒毅も後にその探偵事務所に入る。）、探偵として毛儒毅とともに人々のために尽力する。民国期の上海を舞台としている。

2019年の映画『大偵探霍桑（大偵探霍桑）』は、上にも触れた名探偵・霍桑の活躍を描く民国期の程小青の小説を改編したコメディータッチの推理ものであり、民国期を舞台としている。

2019年のドラマ『民国少年偵探社（民国少年偵探社）』は、若い四人、佟秋白・南宮朔・梅若藍・翟星が探偵社を立ち上げ、事件を解決していく話であり、題名からも分かる通り、民国期を舞台としている。

2019年のドラマ『罪夜無間（罪夜無間）』は、私立探偵・陳一鳴が姚菲・張天笑を自らの探偵社に引き入れ、彼らと組んで事件の解決に活躍する作品であるが、この作品の舞台も民国期（の上海）であり、共産党統治下の中華人民共和国時代の中国（大陸）を舞台とした作品ではない。

2019年のドラマ『紳探（紳探。邦題：紳士探偵L）』は、警察の特別顧問となっている私立探偵・羅非が主人公であり、彼は「警察は無能でいつも私に助けを求める」（第1話）と言う。民国期の1930年代を舞台としている。

2020年のドラマ『民国奇探（邦題：同居人は名探偵～僕らの恋は迷宮入り～）』は、コメディータッチで描かれた作品で、路垚が巡捕房（租界区内の警察）の探長（巡捕房における職位）である喬楚生の依頼にもとづき、巡捕房の顧問として事件解決に活躍する話である。路垚は事件解決の対価としての顧問料を得、生計を立てている。彼は探偵事務所を開いたり、探偵事務所に勤めたりしているわけではないが、探偵業をしているとは言えるのかもしれない。このドラマも民国期の上海を舞台としている。

2020年のドラマ『旗袍美探（邦題：ミステリーIN上海MISSSの探偵ファイル）』は、コメディータッチで描かれた探偵推理もののドラマ。主人公の私立探偵・蘇雯麗（彼女は警官でもないのに事件

に首を突っ込み、勝手に捜査し、巡捕房の巡捕たちを困らせていたが、第2集において、探偵事務所を立ち上げる。)が、巡捕房の探長・羅秋恒とともに事件を解決していく。オーストラリアのテレビドラマ『Miss Fisher's Murder Mysteries』をもとに、内容を中国に合わせて改編した作。民国期1930年代の上海を舞台としている。

2022年のドラマ『民国大偵探 (民国大偵探 (邦題: 名探偵司徒顔))』は、『名探偵ポワロ』(英)から改編した作である。主人公の司徒顔は、第1集から優れた探偵役の人物としてその能力を発揮しているが、第7集からは私立探偵となる。題名からも分かる通り、民国期を舞台としている。

これら民国期の探偵ものには、喜劇的な性格をもつ作品が少なくない。また、民国期という過去を舞台とした作品ではなく海外を舞台とした探偵ものである『唐人街探案』シリーズの諸作品も、同様に喜劇的な性格の作品である。つまり、民国期や海外を舞台とした探偵ものに、コミカルな作品が少なくないと言える。コミカルに描かれた作品は、本論文で扱った(中華人民共和国の期間の中国を舞台とした犯罪)作品の中にも、『龙虾刑警』などの例はあるものの、基本的に、中華人民共和国の期間の中国を舞台とした犯罪作品には極めて少ない。これは、中華人民共和国を舞台とした警官ものの作品が、正義感や責任感に満ち(自己犠牲的な精神すら持っている警官が描かれることも珍しくない。)立派な人格をもつ英雄的な警官を描くことを求められており、それが作品に滑稽さを許さぬことに繋がり、シリアスで厳粛な作風の作品とさせているからであるように思われる。

なお、上記の『唐人街探案』シリーズ(1作目は、『唐人街探案』, 邦題『唐人街探偵 THE BEGINNING』, 2作目は、『唐人街探案2』, 邦題『唐人街探偵 唐人街探偵 NEW YORK MISSION』, 3作目は、『唐人街探案3』, 邦題『唐人街探偵 唐人街探偵 東京MISSION』, 4作目は3作目終わりの予告場面からロンドンが舞台の作と予想される。)は、各国のチャイナタウン(唐人街)を舞台に、秦風ら探偵の活躍を描く作品である。各国のチャイナタウンを舞台に探偵の活躍が描かれていることについて、『唐人街探案3』のエグゼクティブプロデューサーである古澤佳寛は、「そもそも各国のチャイナタウン(唐人街)を舞台に探偵の活躍を描くという発想は、表現の自由度を高めるためだったようです。周知の通り、中国の映画には検閲があります。探偵の活躍を描くとなるとどうしても公安警察を登場させることになる。舞台を海外にすれば、公安警察の立ち位置も自在に描けて、結果主人公の探偵を際立たせることができます。非常に冴えた発想だなと思いました。」と述べている⁸⁾。中華人民共和国成立後の中国(大陸)を舞台とした中国(大陸)の作品では、探偵ものが政府の検閲に抵触してしまい、自由に描くことができない(職業探偵ものは全く描くことができず、探偵的人物の活躍を描くとしても、公安警察の権威を傷つけないように十二分に配慮して描くしかない。)状況の中で、『唐人街探案』シリーズは、そうした制約を回避するために、国外を舞台に探偵の活躍を描くという設定にする戦略を採ったと考えられよう。

中華人民共和国における本格推理映画の先駆けともいえる名探偵推理映画シリーズである「密

室之不可〜」シリーズ（2010「密室之不可告人」・2011「密室之不可靠岸」）においては、職業的なつまりプロの私立探偵は登場しないものの、探偵的役柄の推理小説作家である柳飛雲が鮮やかに事件を推理する。ただし、このシリーズにおいても、優秀な探偵的役柄の人物と無能な警察という構図ではなく、警察もてきぱきと捜査し、推理においても無能な存在とはなっていない。

一方、今回調査した日本映画（つまり表2に載っている日本の映画作品）において、やはり探偵を職業とするプロの探偵が事件を解決に導く作品はないものの、「名探偵コナン」シリーズの毛利小五郎は、職業的なプロの探偵、つまり私立探偵であり、事件を解決しようとしている。また、日本の場合、職業的なプロの探偵が登場する作品は、警官や職業的探偵以外の探偵的役柄の人物が登場する作品よりもずっと少ないとはいえ、それでも、明智小五郎・金田一耕助をはじめとして、優秀な私立探偵が事件を解決する作品は、小説や映像作品に少なからず存在する。例えば、伊集院大介、鶴飼杜夫、工藤俊作、左文字進、杉村三郎、天下一大五郎、トーキョー・サム、三影潤、御手洗潔〔御手洗潔は作品により、占星術師→私立探偵→脳科学者と職業が変わる。〕、村野ミロなどは、作品中の優れた職業的探偵（私立探偵）である。職業的なプロの探偵ではない探偵的役柄の人物（警官以外）が登場する作品は、小説にしる、映像作品にしる、職業的なプロの探偵の登場する作品より更に多く（ずっと多く）存在する。

そして、表2の作品に限って言っても、「名探偵コナン」シリーズの9作品、「ルパン三世vs名探偵コナン」、天才物理学者湯川学を主人公とした東野圭吾原作のガリレオシリーズのうちの一つ「真夏の方程式」、優秀な探偵的役柄の執事・影山と無能な警官・宝生麗子・風祭警部が出る「謎解きはディナーのあとで」において、警官以外の探偵的役柄の人物が事件を鮮やかに推理する。しかも、「名探偵コナン」シリーズ9作品中の過半の作、「ルパン三世vs名探偵コナン」、「真夏の方程式」、「謎解きはディナーのあとで」において、警察は探偵的役柄の人物と比べ明らかに無能である。

2.4.3.1、2.4.3.2及び2.4.4において述べたように、中国には映画基準についての規定「电影剧本〈梗概〉备案，电影片管理规定」「十四，映画に以下に列举した内容があれば，削除して修正すべきである。：（电影片有下列情形，应删剪修改：）……（二）悪意をもって人民軍隊・武装警察・公安及び司法のイメージを損ねるもの：（悪意貶損人民军队，武装警察，公安和司法形象的；）」があり，人民警察の権威や人々の人民警察への信頼を明確に毀損する作品は認められておらず，このことが制約となって，無能な警察（共産党統治下の警察）を差し置いて優秀な探偵的役柄の人物が事件を解決するという作品が制作されないものと思われる。

2.4.8 テロリズムを描く作品に関する日中の相違

表1における調査対象の作品（中国の映画作品）で，項目48「テロリストによるテロ」に×以外の印がつけられているものはない。つまり，本論文で表を作成して調査した37本の中国映画に，テロリストによるテロが描かれた作品は存在しない⁹⁾。

本論文が扱うジャンルの日本の作品には，テロリストによるテロを描く作品がそれなりに存在するが，このジャンルの中国の作品においてそうした作品は少なくとも一般的ではない，という

ことが見て取れる。

一方、表2における調査対象の作品（日本の映画作品）で、項目48「テロリストによるテロ」に○の印がつけられているもの、つまり、本論文で表を作成して調査した43本の日本映画に、テロリストによるテロが描かれたものとしては、以下の9作品が存在する。

「名探偵コナン・ゼロの執行人」

「相棒―劇場版Ⅳ―首都クライシス 人質は50万人！ 特命係 最後の決断」

「相棒―劇場版Ⅲ―巨大密室！特命係絶海の孤島へ」

「劇場版SPEC・結（クロース）～漸（ゼン）ノ篇」

「劇場版SPEC・結（クロース）～爻（コウ）ノ篇」

「劇場版 SPEC～天～」

「SP 革命篇」

「踊る大捜査線 THE MOVIE3」

「SP 野望篇」

なお、

「名探偵コナン・天空の難破船（ロスト・シップ）」においては、途中から、金銭目的の事件であり政治的目的を有したテロではない、ということが明らかにされるが、序盤から中盤まではテロ組織による事件として話が進んでいく。

「相棒―劇場版Ⅱ― 警視庁占拠！特命係の一番長い夜」においても、テロリズムかと思われるような事件（動機の点でテロリズムとは言えないが。）が描かれており、また、それとは別に、警視庁によりでっち上げられた偽のテロ事件も描かれている。

「名探偵コナン・ゼロの執行人」（「犯罪・ミステリー映画の日中比較（2）」日本映画①に説明あり。）

日本が舞台。

テロを行ったのは、公安検察の検事・日下部。彼にとっての正義とは、公安警察の威信を失墜させることである。彼は、公安警察の力が強い限り、公安検察は正義を全うできない、と考えていた。彼も、協力者を使って違法捜査をさせていた人物であるが、NAZU不正アクセス事件によって、使命感で繋がり一心同体ともいえるほどの強い絆で結ばれた協力者であった羽場を失う。公安警察が羽場を自殺に追い込んだと考えた彼は、公安警察に対する憎しみを深め、惑星探査機を警視庁に落とすテロ行為を実行した。そのような彼は、民間人を殺そうとはしていない。IOTテロも極力民間人を犠牲にせず、かつ、自らの目的を達成するためだった。探査機を警視庁に落とす際、あらかじめ警視庁内の民間人を避難させるため、警視庁を停電させた。また、検察官としての良心も失っておらず、無実の罪を被せられた毛利小五郎が無実であることを明らかにするため、再びテロを起こした。（ただし、コナンも指摘するように、テロではやはり多くの人命が犠牲になる可能性があったはずであり、彼は、正義のために多少の犠牲が生じるのはやむを得ないとも言っている。）また、日下部は、なお生きていた羽場の声を聞いて、テロを終息させようと

するし、羽場を避難させてくれるよう安室に頼みもする。そして、日下部はまた、違法捜査をさせていた協力者羽場がその違法捜査のせいで捕まった際、真実が明らかになると、責任が問われて自分の検事としての身分が奪われかねない状況であったにも関わらず、羽場が自分の人生を考えて日下部の協力をしていたということを取り調べで言うように望む。日下部は犯罪者であり、テロを起こした人物でもあるが、彼が人間として善人か悪人かを決めることは、とても難しい。

真の正体が全国の公安警察を操る警察庁警備企画課の警察官である安室（降谷）は、平気で、違法捜査もするし、証拠捏造や隠蔽もするし、無実の毛利小五郎を犯人に仕立てるといった冷酷な行動をもとる。警視庁公安部の幹部警察官の風見も、捜査において、小五郎の携帯に秘かに遠隔操作アプリを入れ、彼を犯罪者としようとするなどの犯罪的行為を働いており（なお、小五郎の携帯に遠隔操作アプリを入れた件は、安室も承知しており、風見が個人の意思で行ったことではなく、公安警察の意思として行われたことである。）、小五郎が容疑者としての任意同行を断った際には、風見は、小五郎が風見の手を払っただけで、公務執行妨害の罪状で小五郎を強引に逮捕する。安室は、公安警察に「裏の理事官」がいることにも触れている。境子（彼女自身も公安の協力者である。）は、通信傍受法で捜査対象となるサーバーの関係者には公安の協力者が多いと述べている。公安警察は、検察（岩井統括）に、無実と分かっている人間（毛利小五郎）を起訴するよう不当な圧力をかけてもいる。この映画には、公安警察の抱える深い闇が、これでもかというほど描かれている。ただし、安室が上記のような行動をとるのは、国を守ることを正義とし、そのためにしていることだった。安室が、無罪と知りつつ小五郎をテロ事件の犯人に仕立て上げたのは、国際会議場の爆発を、誤って事故として処理させないためであり、また、コナンに本気で捜査に協力させるためだった。安室は、逮捕した羽場が自殺したと公には発表させていたが、実は秘かに彼を保護していた。安室・風見は、最後の方で、協力者橘境子に憎まれつつも、「どんなに彼女に憎まれようと、（協力者だった）彼女を最後まで守れ」（安室）、「それが我々公安だ」（風見）とも言う。これらは公安警察の良心の部分である。取り締まり側の公安警察の深い闇を描くとともに、その良心をもしっかり描いているのが、この映画の特徴である。

つまり、テロを起こす側が悪だと決めつけず、その善・良心の部分をもしっかりと描き、また、取り締まり側である公安警察を一方的に正義とせず、その悪の部分、深い闇を描き、しかしまたその善・良心の部分をもしっかりと描いている。

中国にも少数とはいえテロリズムを描く作品は一定数存在し、反恐（反テロリズム）の作品がそうした作品であるが、それらの作品において、テロリストは絶対的な悪であり、それを倒す側（自国の統治機関に関連する組織〔例えば軍・武装警察〕やそこに属する軍人や武装警察の隊員など）は絶対的な正義である。

また、テロリズムを描く中国の作品は、基本的に、中国人・中国の警察や軍などが国外の、ないしは国境を越えてグローバルに活動する国際テロリスト組織を倒す話であり、中国人が中国の政府や政治に不満があって起こすテロリズムは描かれない。もちろんそれは、中国政府が国民の中国の国家組織への信頼を高め、自国においてテロが誘発されることを防ぐためと考えられる。

「相棒―劇場版Ⅳ―首都クライシス 人質は50万人! 特命係 最後の決断」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較 (2)」日本映画⑦に説明あり。)?

日本国内でのテロ未遂事件。

犯人マーク・リュウ(天谷克則)は、テロの危険性に晒されているという日本の危険な状況を日本国民に知らせるため、テロ未遂事件を起こしたのであり(犯人はテロ事件を成功させるつもりではなく、未遂事件として終えるつもりだった。)、このような自国内における政治的目的のテロ(テロとはそもそも政治的目的を持つものを言うが。)を題材にした作品は、今回調査した中国映画にはなかった。

犯人は、犯罪者ではあるが、善意のある人物であり、悪人とは言いがたい。

政府・警察の高官たちは、自らの責任を回避し保身を図るために発言を変えるような者として批判的に描かれている。

「相棒―劇場版Ⅲ―巨大密室! 特命係絶海の孤島へ」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較 (2)」日本映画⑧に説明あり。)

日本が舞台。

自国で起こされるテロを描いており、テロ組織は悪として描かれているが、自国(日本)の統治する側の者や組織・軍など(政治家や防衛省・自衛隊・警察など国の組織)をも問題のあるものとして批判的に描いている。こうした作品の制作は、中国では許可されないものと思われる。

後で触れるように、中国にも反恐(反テロリズム)映画が(映画全体における比率は非常に小さいとは言え)存在するが、中国のそうした映画は、中国の統治組織は正義であるという前提に立った作品であり、自国(中国)の軍隊・軍人など(作品によっては、武装警察やその隊員〔なお、人民武装警察は人民解放軍と同様に中央軍事委員会の指揮下にあり、日常的な治安を司る人民警察とは異なり、準軍事組織であり、管理や専門技術などに関わる文民系の職員以外は、現役の軍人である。〕、あるいは退役軍人、国家安全局に属する人物などの場合もある。)は、強く優秀で、勇気や使命感があり、道徳的にも優れ、素晴らしいものとして描かれている。軍・軍人・武警部隊などがテロ組織を撃滅させる戦闘アクションものないし戦闘アクションをも重要な要素とした作品が多く、また、大概是、国外において、あるいは国を跨いで起きるテロにおいて中国の軍・軍人、あるいは武装警察やその隊員、退役軍人などが活躍する作品である。

以下に、「犯罪・ミステリー映画の日中比較 (2)」日本映画⑧を引用する。

例えば、政治家(栗山)は警察に圧力をかけ、捜査を妨害しようとする。自衛隊が生物兵器対策のため備蓄した天然痘ワクチンが神室らにより盗まれたが、自衛隊や防衛省は、その事実を隠蔽しようとし、島に特殊部隊を「訓練」と称して派遣し、島に捜査に来ていた警察官たちを島から実力で排除する。自衛隊は島で生物兵器を探し、完璧に破壊して、警察がまた見に来てても何もなかったことにしようとし、事実を隠蔽する。警察・防衛省は、互いの組織にスパイを送り合っ

ている。防衛省防衛政策局次長補の綿貫は、自衛隊の天然痘ウイルスが組織に盗まれた際、すぐに公表すべきと防衛省内で内部告発しようとしたが、組織の自浄作用が働かず、全く聞き入れてもらえなかった。警察庁次長の甲斐峯秋は、綿貫に、「自浄作用が働かないのは、いずこも同じだね」と言い、警察も自浄作用が働かない組織であることを暗に述べている。この作品は、軍に対しても批判である。防衛省や自衛隊の上記の隠蔽体質、違法組織との親和性（自衛隊の幹部が組織のリーダーの志を評価している。）、自浄作用の欠如などにも、それは表れているし、警察庁次長の甲斐峯秋が神戸に言う言葉「（エルドビアと言う国にいたお）軍隊の横暴をまざまざと見せつけられたよ」にも軍への批判が表れている。リーダー神室をはじめとする退役自衛隊OBが、孤島に国防のための民兵訓練組織を組織。参議院議員・防衛大臣政務官の栗山が支援。自衛隊のそうそうたる顔ぶれの幹部たちも神室と面識があり、かつ神室の志を評価する発言をしている。しかし、組織は自衛隊から天然痘ワクチンを盗み、非合法の生物兵器を製造。テロを行っていると言える。

組織の長期訓練に参加していた岩代が死んだ。岩代は、神室らに訓練のための場所を提供している若狭（島の所有者）が社長を務める若狭産業の社員。実は、岩代は、栗山が自分がテロリストの支援をしていることにならないか恐れ、若狭に依頼し組織に送らせた潜入スパイで、生物兵器の有無を調査しており、神室に殺されたのだった。

この作品においては、政治家や防衛省・自衛隊・警察など国の組織が問題のあるものとして描かれている。例えば、政治家（栗山）は警察に圧力をかけ、捜査を妨害しようとする。自衛隊が生物兵器対策のため備蓄した天然痘ワクチンが神室らにより盗まれたが、自衛隊や防衛省は、その事実を隠蔽しようとし、島に特殊部隊を「訓練」と称して派遣し、島に捜査に来ていた警察官たちを島から実力で排除する。自衛隊は島で生物兵器を探し、完璧に破壊して、警察がまた見に来て何もなかったことにしようとし、事実を隠蔽する。警察・防衛省は、互いの組織にスパイを送り合っている。防衛省防衛政策局次長補の綿貫は、自衛隊の天然痘ウイルスが組織に盗まれた際、すぐに公表すべきと防衛省内で内部告発しようとしたが、組織の自浄作用が働かず、全く聞き入れてもらえなかった。警察庁次長の甲斐峯秋は、綿貫に、「自浄作用が働かないのは、いずこも同じだね」と言い、警察も自浄作用が働かない組織であることを暗に述べている。

この作品は、軍に対しても批判である。防衛省や自衛隊の上記の隠蔽体質、違法組織との親和性（自衛隊の幹部が組織のリーダーの志を評価している。）、自浄作用の欠如などにも、それは表れているし、警察庁次長の甲斐峯秋が神戸に言う言葉「（エルドビアと言う国にいたお）軍隊の横暴をまざまざと見せつけられたよ」にも軍への批判が表れている。

「劇場版SPEC・～天～」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(2)」日本映画②③に説明あり。)③①に説明あり。・「劇場版SPEC・結(クローズ)～漸(ゼン)ノ篇」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(2)」日本映画②③に説明あり。・「劇場版SPEC・結(クローズ)～(コウ)ノ篇」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(2)」日本映画②⑥に説明あり。)

日本を舞台とするが、SPECホルダー（特殊能力保有者）の存在を始め、現実とは異なる空想

上の世界である。

警察といった国家権力その他の組織とスペックホルダーの戦いを描く。人類の権力者たちは、スペックのない人類にとって危険な存在であるSPECホルダーを抹殺しようとするが、SPECホルダーたちは、それに対抗して反旗を翻し、権力掌握のためのテロを起こす。警察は、スペックのない人類を敵とみなして暴走するスペックホルダーたちと戦う。

警視庁公安部に設立された未詳事件特別対策係に配属された当麻は、警視庁特殊部隊出身の瀬文ら仲間とともに、特殊能力SPECを持つ者たちと戦う。自らもSPECホルダーである警察官・当麻は、そのことと警察官としての本分との狭間で苦悩しつつ、警察官としての職を全うするため、同僚の瀬文らと共にSPECホルダーたちと戦う。瀬文や上司の野々村係長をはじめ警官の仲間たちも、当麻がSPECホルダーであることを知りつつ、彼女を仲間と考えている。SPECホルダーを抹殺しようとはしていない。

この作品においては、国家権力側・警察側が必ずしも善・正義とも言い切れない。国家権力側・警察幹部は、SPECホルダーを、SPECを有しているということだけで抹殺しようとする。(なお、「劇場版SPEC・結(クローズ)～漸(ゼン)ノ篇」において、以下のような会話がされている。吉川:「〔略〕日本の経済や政治を設計する御前会議は、スペックホルダーが表舞台に出てくれば、能力主義になり、世襲制も選民支配システムもくずれてしまう〔略〕」当麻:「そりゃまあそうでしょうな。体制側は公安零課を作り、サイロを使って全力で隠蔽してきたわけですから〔略〕」統治側・体制側に対する痛烈な批判が平気で口にされている。ただし、警官であっても、主人公・当麻や同僚の瀬文、上司の野々村ら警視庁公安部公安第五課の仲間たちは、SPECホルダーをSPECを有しているということだけで抹殺しようとするようなやからではない。)

また、SPECホルダーたちはスペックのない人類によるSPECホルダー抹殺計画に対抗して反旗を翻しているのであり、それは彼らにとってやむを得ないことと思われるし、しかも、SPECホルダーたちは、人間的にもよいところがあり、完全な悪役としては描かれていない。

「結(クローズ)～爻(コウ)ノ篇」では、今まで主人公の警察官当麻らと戦ってきたスペックホルダーたちは、死んでから当麻に呼び出されて、当麻とともに先人類であるセカイや湯田と戦う。「結(クローズ)～爻(コウ)ノ篇」において、彼らは仲間であり、悪役では全くない。

先人類である(なお、先人類はスペックも保有している。)潤は、やはり先人類のセカイとともに、現人類からこの世界を取り戻そうとするが、母として自分を生み育ててくれた現人類の里子を庇い、里子と共にセカイに消される心優しい面をも見せる。

セカイや湯田は悪役といえる。しかし、彼らにしても、ガイアと調和して生きる先人類であり、地球外より飛来した物質から変異して増殖し発展した欲望にまみれた現人類からこの世界を取り戻そうとしていたのであり、それを悪と決めつけることは難しいように思われる。

先人類の末裔でありスペックホルダーである卑弥呼は、ガイアの真の意思を実現しようとして、セカイとも対立する。

(主人公当麻らの正義、セカイの正義、卑弥呼の正義、現人類スペックホルダーたちの正義、スペックホルダー全滅を図る御前会議の正義、など、この作品に登場する様々な人物にそれぞれ

の正義があり、この作品はそれらが交錯したところに生まれている作品ともいえるのかもしれない。)

主人公と対立する者たちも、必ずしも絶対的な悪としては書かれていない。このように善悪が曖昧な作品は、中国には少なく、日本にはよく見られるように思われる。

日本映画に善悪が曖昧な作品が少なくなく、中国映画にそうした作品が非常に少ないのには、日中の文化の差、日本人と中国人の考え方の差も背景にあると思われるが、中国の映画審査制度も大いに関係している。「电影剧本(梗概)备案, 电影片管理规定」第十四条に以下の規定がある。「电影片有下列情形, 应删剪修改(映画作品に下記の状況があれば, 削除して修正しなくてはならない):……(四) 颠倒真假, 善恶, 美丑的价值取向, 混淆正义与非正义的基本性质;(真偽・善悪・美醜の価値基準を転倒させ, 正義と非正義の基本的性質を混交させるもの)」

なお、中国にもテロを扱う映画は(、映画全体における比率は極めて小さいとはいえ)存在するが、中国のそうした映画は、中国の統治組織・統治側の組織は善であるという前提に立った作品であり、自国(中国)の軍隊や武装警察などは、勇気あり優秀で英雄的で素晴らしいものであるとして描かれている。彼らは自分たちの行為が正義・善であるか苦悩することもない。彼らは疑いなく正義・善として描かれており、また、テロリストは悪である。

これは、そもそも中国の方が日本より善悪を明確に分ける傾向が強いことにもよっているかとも思われるが、中華人民共和国においては、統治側にとって不都合な統治側に対峙する側を悪とするという政治的要因によっている部分が大きいように思われる。

「SP 革命篇」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(3)」日本映画③④に説明あり。)・「SP 野望篇」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(3)」日本映画④⑤に説明あり。)

「SP 野望篇」が前編、「SP 革命篇」がその続編。これらにおいては、日本が舞台。

SPたち・エリート官僚たちや有力政治家(与党幹事長)の中に、武力により革命を起こし政権を倒そうという者たちがいる。(実際の参加者の思惑・目的はそれぞれに異なっている。)

「革命篇」においては、革命側の脅迫のもとで、政治家たちの悪が次々に暴かれていく。総理大臣の過去の悪事・犯罪も暴かれていく。

革命側は悪として描かれていると見てよいと思われるが、SPや有力政治家・エリート官僚が武力・脅迫により国家権力を打倒しようとする話であり、政権にとって危険なこのような作品は、中国では製作が許可されることは到底ありえないものと思われる。政権トップ〔つまり総理大臣〕や有力政治家(与党幹事長)ら国家権力中枢の政治家の悪事・犯罪まで描かれており、こうした点も、中国では製作が許可されることは到底ありえないものと思われる。

「踊る大捜査線 THE MOVIE3」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(3)」日本映画③⑧に説明あり。)

日本が舞台。

テロ行為をする犯人は悪として描かれているが、警察も悪とは言えないものの非常に多くの問

題を抱える組織として描かれている。正義感の強い英雄的な警官たちが活躍する作品とは言い難い。(とりわけ、前半においてそうした傾向が強い。主人公青島は後半、死ぬ気になって頑張るようになり、また官房審議官の室井や所轄の部下・上司の警官たちもいい所を見せるようになるが、英雄的な活躍をする完璧な人物としての描かれ方からは程遠い。) 中国にも反恐(反テロリズム)映画が(映画全体における比率から見ると非常に)少ないとはいえ存在しているが、中国のそうした映画は、中国の統治組織は善であるという前提に立った作品であり、自国(中国)の軍隊・武装警察・国家安全局などに属する人物は、勇気あり英雄的で素晴らしいものとして描かれている。

「名探偵コナン・天空の難破船(ロスト・シップ)」(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(3)」日本映画④に説明あり。)

日本国内での事件。

国立の微生物研究所が、テロ組織「赤いシャムネコ」を名乗る武装グループに襲撃される。武装グループは研究所に保管されていた殺人バクテリアを強奪し(実は単にそう思わせ)、研究所を爆破して逃走、7日以内に次の行動を起こすと犯行声明を出した。その後、鈴木財閥の飛行船が、武装グループにハイジャックされ、グループは「殺人バクテリア」により人々を脅す。(武装グループは、飛行船内に爆弾を仕掛けており、爆弾が爆発すれば乗客・乗務員全員が犠牲になり、また、細菌が散布されると、地上の多数の住民が感染の危機に晒される、と思わせる。)

中盤までテロ組織による犯行として話が進むが、後半において、武装グループの目的は実は金銭的目的であることが明らかになる。

この作品においては、事件を起こした側は悪、それを倒す側は善・正義である。

「相棒―劇場版Ⅱ― 警視庁占拠! 特命係の一番長い夜(「犯罪・ミステリー映画の日中比較(3)」日本映画⑤に説明あり。)

日本国内での事件。

八重樫の起こした警視庁籠城事件(警視総監を含む警視庁の幹部みなを人質として、拳銃を使い脅迫した事件)は、政治的な主義主張によるものではなく、そうした事件は、テロには含めないものと思われるが、少なくとも、テロの手法によっていると言うことはできる。

なお、それとは別に、警視庁の「影の管理官」長谷川宗男副総監が公安部の存在意義を示そうとして偽のテロ事件を自作自演で捏造したことも描かれている。

警察(その最上級クラスの幹部)に問題があって事件が起きている。

警視庁籠城事件を起こした八重樫は犯人ではあるが、悪人とは言えない。(事件を起こす十分な理由があった。)

警察(その最上級クラスの幹部)は、以下のように批判的に描かれている。

警視庁の「影の管理官」長谷川宗男副総監らは、にせのテロ事件を自作自演で捏造して公安部の存在意義を示そうとした。警視総監以下12名の警視庁幹部(籠城事件の人質全員に当たる。)

は、にせのテロ事件の巻き添えで死んだ警官（磯村）の無念を晴らそうとした八重樫による内部告発の告発文を握りつぶした。12名のうちの一人三宅生活安全部長は、長らくその立場を利用して、裏金作り、金品の授受、交通違反のもみ消しなどを多く行ってきた人物でもあり、最後、懲戒解雇となって、恨みから官房長を刺殺する。12名以外では、警視庁参事官が上司に卑屈なまでにぺこぺこと諂う一方、部下に対し尊大な態度をとる。大河内監察官は、上司たちに忖度し、朝比奈に嘘の供述をさせる。警察庁の官房長は、警視庁との政争を重視し、部下に警視庁管理室の盗聴までさせ、また事件の真相を明らかにすることよりも、盗聴内容を使い警視庁との関係を有利なものにすることを重んじる。警察庁長官も、警視庁との関係において有利な立場になろうとしている。

上記作品の内、「名探偵コナン・ゼロの執行人」「相棒―劇場版Ⅳ―首都クライシス 人質は50万人! 特命係 最後の決断」「劇場版SPEC・結（クローズ）〜爻（コウ）ノ篇」「劇場版SPEC〜天〜」「相棒―劇場版Ⅱ― 警視庁占拠! 特命係の一番長い夜」計5本は、犯罪者側が悪と言いきることもできないし、それを倒す側が善・正義と言い切ることもできない。

また、「相棒―劇場版Ⅲ―巨大密室! 特命係絶海の孤島へ」と「踊る大捜査線 THE MOVIE3」においては、テロリスト側は悪であるものの、警察・自衛隊などテロリストに対峙する側にも問題がある。（とりわけ、「相棒―劇場版Ⅲ―巨大密室! 特命係絶海の孤島へ」においてそうである。）

そしてこれら作品のすべてが、日本を舞台とし、そこでテロ（ないし手法的にテロと同様の事件）が起こされる作品である。

なお、先ほど述べたように、本論文の表（表1・表2から作成した表3）を見ると分かる通り、日本の作品には、テロリストによるテロを描く作品がそれなりに存在するが（もちろん、それでもそれは日本映画全体の小さな部分にすぎないが。）、中国の作品においては、そうした作品は、中国映画全体の極めて僅かな比率を占めるに過ぎないと言える。ただし、中華人民共和国にも無論テロを題材とする作品は存在する。「反恐（犯テロリズム）」の作品がそうした作品といえる。

例えば、興行成績の非常によかった特に有名な作品では、「战狼2（戦狼ウルフ・オブ・ウォー）」（2017）、「红海行动（紅海行動，オペレーション：レッドシー）」（2018。ただし、監督は香港人。）が反テロリズムの作品とも言われる。いずれも中国の軍人（・元軍人）・軍の国外における英雄的な活躍を描くミリタリー・アクションものである。中国人にとって、愛国心を満足させられる非常に愛国的な作品とも言える。いずれも主として外国の内戦時における優秀な中国軍人（ないし元軍人）や中国軍の活躍を称えるというスタンスで描いたものであり、中国政府に対する批判に繋がり得るような内容・要素は全くなく、中国における政治的目的のテロを誘発させるような要素は全く存在していないといえる。反テロリズムというよりはミリタリー・アクションもののジャンルの作品と言う方が近いように思われる。

「战狼2」は、中共中央宣伝部が精神文明建設〔具体的には、演劇・ドラマ・映画・社会科学

分野の図書・社会科学分野の理論的文章などのジャンル。] について評定・選出する賞である「五个一工程獎（五個一工程獎。五個とは、上記五つのジャンルを指し、「工程」はプロジェクト、「獎」は賞の意。）」を受賞している〔第十四届、つまり第十四回〕¹⁰⁾。

「紅海行動」は博納影業集团股份有限公司と中国人民解放軍海政電視藝術中心〔「電視」はテレビ、「中心」はセンターの意。〕等が共同で出品した作品であり、また、やはり五个一工程獎を受賞している〔第十五届、つまり第十五回〕¹¹⁾。

いずれの映画も娯楽映画であるが、やはり国や軍による（それらをまとめて、国によると言ってもよいであろうが。）プロパガンダ的色彩は拭えないように思われる。）

「空天獵（スカイハンター）」（2017も、中国の軍人の英雄的な活躍を描くミリタリー・アクションものである。中国空軍の「空中獵」はエリートのみ所属できる部隊。近隣の馬布国（架空の国名）で空軍基地が攻撃され占拠されるテロ事件が発生。「空中獵」の隊員たちは、人質救出とテロ組織壊滅を目的とする極秘ミッションが言い渡され、反テロリズムの救援作戦のため、馬布国に向かってテロリストたちと戦い、ミッションを成功させる。この作品にも、やはり中国の政府や公安や軍に対する批判に繋がり得る内容は全くなく、中国における政治的目的のテロを誘発させるような要素は全く存在していないといえることができる。中国の空軍が称えられる内容である。（なお、この作品も、中国人民解放軍空軍政治工作部電視藝術中心〔「電視」はテレビ、「中心」はセンターの意。〕、春秋時代〔霍尔果斯〕影業有限公司その他が共同で出品した作品であり、軍が制作に協力したというより、制作全体に極めて大きく関わっていたといえる。娯楽映画であるが、プロパガンダ的色彩がやはりあるというべきであろう¹²⁾。

「反恐（反テロリズム）」の作品がこれらだけでないことは言うまでもないが（上記では、とりあえず本論文執筆の時点において「豆瓣电影」で10点中5.0点以上のもののみを取り上げた。）、「反恐」が題名にも入っている作品で言うと、映画ではないが、2015年の龍小剛監督のドラマ「反恐特战队（反恐特戦隊）」は、対テロリズムの特別作戦部隊を描いたドラマで、続集のドラマとして、「反恐特战队之猎影」（2017）、「反恐特战队之天狼」（2019）もある。「反恐特战队」「反恐特战队之天狼」は、武警部隊政治工作宣傳文化中心（「武警」は武装警察。中国人民武装警察部隊は日常の治安を司る人民警察とは異なり、準軍事組織であり、管理・専門技術などに関わる文民職員以外は、現役の軍人である。2018年から党中央と中央軍事委員會の指揮下にある。「中心」はセンターの意。）と京都世紀が共同で出品した作品であり、「反恐特战队之猎影」は武警総部宣傳藝術中心（「総部」とは本部の意。）と幸福藍海影視文化集团股份有限公司が共同で出品した作品である。武警部隊政治工作宣傳文化中心や武警総部宣傳藝術中心が出品した作であることから見て取れるであろうが、プロパガンダ的側面を有しており、英雄的な気概を有した優秀・勇敢な対テロリズム特殊作戦部隊の隊員たちを描いている。同じく龍小剛監督の「反恐特战队」シリーズの映画である「反恐特战队之刺杀危机（反恐特戦隊之刺殺危機）」（2016）「反恐特战队之黑日密钥（反恐特戦隊之黒日密鑰）」（2016）のストーリーも、同様である。

中国の「反恐（反テロリズム）」の作品の内容は、（ドキュメンタリー以外では、）あらまし以下のようなタイプの作品があると言えるように思われる。

- ① 中国の軍などが他国（他国の政府や軍など）に協力し、優れた能力や強い使命感・正義感・勇敢さなどによって、その地のテロ組織と戦う作品
例:「战狼2（戦狼2, ウルフ・オブ・ウォー）」(2017),「空天猎（空天獵, スカイハンター）」(2017),「红海行动（紅海行動, オペレーション：レッドシー）」(2018),「中国藍盔（中国藍盔）」(2018:中国の軍が国連平和維持軍として活躍, 他国政府だけでなく国連とも協力している。中国人民解放軍八一電影制片廠〔「電影制片廠」は映画制作工場の意。〕が制作しており, そのことからプロパガンダ的要素が強い作品であることが伺える。)
- ② 中国方の人物・組織（例えば, 中国の武装警察など）が他国の当局と協力し, 優れた能力, 強い使命感や正義感と勇敢さで, 中国をも含めてグローバルに活動する国際テロ組織と戦う作品
例:「反恐特战队（反恐特戦隊）」シリーズの諸作品
- ③ 中国方の人物・組織（例えば, 中国・国家安全局や中国企業の中国人警備隊員など）が, 中国の援助による他国における大型プロジェクト（例えば, インフラ建設など）を妨害しようとするテロリズムを, 優れた能力や強い使命感・正義感・勇敢さなどによって, 現地当局と協力しつつ解決する作品
例:「絶対忠誠之国家利益（絶対忠誠之国家利益）」(2021),「狐踪谍影（狐踪諜影）」(2020。主人公としてタイで活躍する肖剣は, 映画では中国系グローバル企業の警護部門の隊長であるが, 原作小説では中国公安の刑事である。)

なお, 上①②③に挙げた作品は例であり, それらに属するすべての作品を上挙げていないわけではないことは言うまでもない。

また, 中国の「反恐（反テロリズム）」の作品は, 映画全体における比率は極めて小さいとは言え一定数の作品があるので, 上記とやや異なる内容の作もあり, 厳密な意味において上記①②③によりすべての作品を集約できるわけではない。

例えば, 侯傑監督の「特种兵归来（特殊兵帰来）」シリーズの東南アジアの藤国を舞台とした「1血狼之怒」[2018], 「2黑色罌粟（黒色罌粟）」[2018], 「3绝密战场（絶密戦場）」[2018], 「4替身疑云（替身疑雲）」[2021]の諸作（主人公は現役の軍人ではなく退役兵である。）は, ②に近いが, 他国の当局と協力しているというわけではない。（「4替身疑云（替身疑雲）」においては, 龍衛ら退役兵たちは, 現地藤国の大統領の娘と協力関係にあるが, 基本的には現地当局と協力して行動しているわけではない。¹³⁾）

また, 例えば映画「绝色营救（絶色营救）」(2019)は, 以下のような内容の作品である。世界最高レベルの傭兵組織の中国人（と思われる）元行動隊長が東南アジアT国国王の警備を担当していたが, T国王が襲撃され拉致されるというテロに巻き込まれる。彼女は友人たち（旧友の中国人と思われる女性兵士ら）とともに, 国王（や監禁されていた若い女性たち）の救出のため, テロリストたちと戦う。この作品には元行動隊長やその友人たちの優秀さ・勇敢さなどが描かれているものの, 「中国人」の優秀さ・正義感・勇敢さなどを強調しようとした作品ではなく, 中

国の他の「反恐」の作品と比べると、中国人の愛国心が強く表れてはいない作品と言える。作品制作に軍や武装警察の宣伝部門などが関わっていないせいもあるかもしれない。この作品は①②③のいずれとも言えないが、①②双方の要素を多くもつ変種ということもできよう。

このように、①②③だけですべての中国「反恐」作品を網羅することはできないが、①②③で中国「反恐」作品のあらましの内容傾向を示すことはできると考えていいように思われる。

中国の「反恐（反テロリズム）」の作品においては、中国の政府機関・公安・軍などは明確に正義であり、また、テロリストの側は悪であるという特色も明確である。しかも、例えば、上で挙げたテロを描いた作品に、外国のテロ・外国人によるテロや、国境をまたぐ国際テロ組織によるテロ・犯罪などは描かれても、中国人が中国政府や中国の政治に対する不満・反感・批判によって起こすテロは描かれておらず、つまり、中国の政府（や警察や軍）に対する批判や中国におけるテロを誘発しかねないような要素のある内容は、描かれていないといえることができる。（なお、作品中に悪人の中国人が登場することはありうるが、基本的に中国は善であり、また、欧米人は悪役となることが非常に多い。国家としても、中国は他国・他国の人々を助ける頼もしく強い正義の国として描かれるのが基本である。中国の掲げる「一帯一路」戦略に沿った他国や他国民を助ける正義の国としての中国自身の自国の国家イメージが明確に描かれている。なお、中国による途上国への開発援助については、欧米〔や日本の〕メディア等においては批判的に取り上げられることも多いが、②の作品において、中国による他国のインフラ建設に対する援助について、明確に善として描かれていることは言うまでもない。）

中国においても「反恐（反テロリズム）」とされる作品が作られてはいるが、自国の政府に対する批判や政治的テロを誘発しかねないと警戒される要素の少しでもある作品については、中国の映画審査を通らないと考えるべきであろう。

上記を整理すると、日本と中国のテロを描く作品を比較すると、日中の作品には以下のような違いがあるように思われる。

1 (中国にも反テロリズムの作品は一定数存在しているが,) 少なくとも表3から考える限り、日本は中国に比べ、テロを描く作品の比率が高いものと思われる。(ただし、表1を作成した際、2017年の中国映画「战狼2(戦狼ウルフ・オブ・ウォー)」「空天猎(スカイハンター)」, 2018年の中国映画「红海行动(紅海行動, オペレーション: レッドシー)」3作を取り上げなかった。その理由は、それらがこの論文で扱う「犯罪・ミステリー映画」のジャンルというよりもミリタリーものの映画というのがその内容に近いからである〔特に「战狼2(戦狼ウルフ・オブ・ウォー)」「红海行动(紅海行動, オペレーション: レッドシー)」については、そこに主に描かれている内容は、他国における内戦レベルのものであり、その反政府軍側を「テロリスト」として描いている。「空天猎(スカイハンター)」についても、空軍基地を完全に武力で占拠するレベルの他国におけるテロリズムを描いており(この映画は、中国の軍人が他国において英雄的に活躍するミリタリー

ものの映画である。),「空天猎(スカイハンター)」におけるテロリスト側の首謀者はその国の軍人である。] そうしたものは〔とりわけ「战狼2(戦狼ウルフ・オブ・ウォー)」や「红海行动(紅海行動, オペレーション: レッドシー)」の場合などは〕日常的な意味での犯罪のレベルを大きく超えたものであり、一般的には、本論文で扱う「犯罪・ミステリー」のジャンルには含めないだろうと思われるが、そのような性質の作品をも犯罪に絡むという観点から表に取り上げるとすれば、表1にはこれら3作品をも加えるべきということになる。〔特に、「空天猎(スカイハンター)」については、本論文で取り上げるべき「犯罪映画」として、あるいは表1に載せてもよかったかもしれない。〕ただ、そのようにしてカウントしたとしても、やはり日本の方がテロを描く作品がずっと多いことに変わりはない。)

2 中国においては、自国民が中国政府や中国の政治に対する不満・反感・批判によって起こすテロを描く娯楽映画やドラマはないが、日本の作品にはそうした作品がある。

3 日本の作品においては、テロリストが必ずしも悪人とも簡単には言い切れない場合も珍しくはない。中国の作品においては、テロリストは悪である。

4 日本の作品においては、統治する側・警察・軍などにも問題がある場合も多い。中国の作品においては、テロリストに対処する側は善・正義であり、正義感・使命感が強く勇敢で有能で素晴らしい英雄的な存在として描かれている。

5 中国の作品においては、軍や武装警察などの宣伝工作部門が(単なる撮影協力のレベルを超えて)制作に中心的に関わっている作品が多く見られる。日本の作品ではそのようなことはない。

6 日本の作品においては、一般的に、日本が舞台で、テロリストは国内のテロリストである。中国の作品においては、舞台は国外、ないしは国外をも含めた地域である。そして、中国の軍(・軍人・退役軍人)・武装警察・国家安全局などが、他国の政府・軍・警察などに協力し、国外のテロリスト、あるいは国境を越えて活動する国際テロリストを制圧・殲滅するものが非常に多い。(基本的に中国の作品においては、テロには外国人が大きく関わっており、テロリストは外国人である、あるいは外国人が多くいる。)

7 中国の反テロリズム作品を①②③に大別したことから見ても取れるように、中国の反テロリズム作品は、政府の意向に反した作品を制作することができないため、同工異曲の似たような作品ばかりになっている。規制の少ない日本では、それとの比較において言うと、様々な種類の作品が生まれていると言うことができる。(もっとも、日本には中国の①②③に相当するような作品はおそらくないのではないと思われる。)

8 6に関わる点であり、また、5にも関わる面があるかもしれないが、中国の作品は基本的に愛国的であり、国威を発揚する、国民の愛国心を高める、あるいは国民の愛国心を満足させる、等の面を有している。日本の作品には、一般的にそうした面は見られない。

なお、

9 中国の作品においては、多くの作品において、(他国に協力してではあるが、)テロ組織・テロリストたちと戦うために自国(つまり中国)の軍や武装警察などが他国において武力を展開

するが、これは日本の作品ではまずありえないことのように思われる。(そもそも日本においては、自国の軍や警察が他国で武力を行使することは、少なくともフィクションでなく現実のことであれば、認められないことである。)

10 中国の作品には、しばしば戦争における戦闘並み、ないしそれに準ずるようなレベルの大規模で激しいアクションシーンがあるが、日本の作品にそうしたものはまずないと思われる。(こうした迫力を好む視聴者は、とりわけ迫力のある中国の①の作品などを好むかもしれない。) といった違いもある。

上記にいくつかの相違点を挙げたが、1～7の点はすべて、中国の映像作品制作において、中国の政府・軍・警察などに対する不満が生じないようにし、またテロが誘発されないようにするという方針が採られている、ということと関係するものであろう。(8も、愛国心により国民の共産党への求心力を高めようとしている面があるであろう。)

なお、表1の中国映画においても、作品④の「惊天大逆转 (驚天大逆転)」については、「犯罪・ミステリー映画の日中比較 (2)」において以下のことを書いた。

「惊天大逆转」

中国の映画製作会社・映画監督の制作した作品だが、舞台は韓国。李政宰・李彩英をはじめ韓国人俳優・女優も多数参加。

韓国人警官・姜が韓国に滞在している中国人精神科医・楊曦の協力を得つつ、犯人による爆破計画を防ごうとする。(中略) 犯人と精神科医の協力をも得た警官が知恵と頭脳を戦わせるテロアクションもの。(中略) この映画における犯罪の手法は、テロリズムと同様であるが、政治的目的を達成するための犯罪ではないという点で、テロリズムとは異なる。今回調査対象となった中国映画に、政治的目的達成のためのテロリズムが出てくる作品はなかった。中国共産党の統治にとって危険な存在となるテロリズムは映画の題材として認められないということが背景にあらう。もっとも、そもそも爆破事件が国内で起こされるといったシナリオ自体、テロリズムを誘発しかねないものとされ、当局の審査を通らないものと思われる。上記の「拍出一部国产悬疑动作片的良心之作，究竟需要多少成本？」には、以下のことも書かれている。「李駿（監督）の印象としては、第一の脚本の完成はまあ順調といえただろうが、しかし、爆破事件が国内で発生し、精神科医の役が（アメリカ映画「キューティーマ・コップ」に出てくる）不器用な女性警官のようであるといった「政治的に問題のある」設定が、(当局の) 審査を通らず、第一稿を改めても、やはりなお審査を通らず、いつの間にか2014年まで時期が遅れてしまい、(中略)」この映画は、最終的には韓国を舞台とする映画となったことで、広電総局の審査を通ることができたのであらう。

この作品に描かれたのは政治的目的のテロリズムとは異なるが、それでも中国国内でテロのような爆破事件が発生するという設定が審査を通らなかったのである。中国政府にとって、国内で

のテロを誘発しかねないような作品は認められないのであろう。

（略）48：（略）犯人が過酷な手段によって無関係な一般市民や建造物などへの攻撃をも行い、恐怖心を煽った点は、正しくテロリズムの手法である。しかし、テロリズムとは、本来、政治的・社会的目的の達成という目的を持つものであろう。そう考えならば、この犯罪には、見せかけとしても、政治的・社会的目的と呼べるほどのものがなく、そもそも、そうした目的をもつテロに見せかけた犯罪とすら呼べないように思われる。中国で政治的・社会的目的達成のためのテロリズムを扱う映画を作ろうとしても、当局の審査を通らないこともその原因となっているのではないと思われる。

中国は、自国においてその政府による統治、「国家の安全」に危害が及ぶようなテロ事件が作品により誘発されることを強く避けようとしているように思われる。

中国の「電影劇本〈梗概〉備案, 電影片管理規定」(《电影剧本〈梗概〉备案, 电影片管理规定》)(2006年6月22日より施行。)には、以下の条項がある。

第十三条 电影片禁止载有下列内容：

(三) 泄露国家秘密，危害国家安全，损害国家荣誉和利益的；

〔第十三条 映画には下記に列举する内容を載せることを禁止する：(三) 国家の秘密を漏らしたり，国家の安全に危害を及ぼしたり，国家の荣誉と利益を損なったりするもの；〕

「出版管理条例」(「条例」は、簡条書き形式の法令の意。)には、以下の条項がある。

第二十五条 任何出版物不得含有下列内容：

(三) 泄露国家秘密，危害国家安全或者损害国家荣誉和利益的；

〔第二十五条 いかなる出版物も以下の内容を含むことはできない：(三) 国家の秘密を漏らしたり，国家の安全に危害を及ぼしたり，国家の荣誉と利益を損なったりするもの；〕

こうした条項は、範囲が曖昧な条文ではあるが、自国の政府の統治を揺るがしかねないタイプのテロリズムを描く作品の制作を認めないことに繋がる条項と言えよう。中国は、共産党の統治下において、その政治体制に基づく検閲制度があり、そのため、自国の政府の統治を揺るがしかねないと警戒されるタイプのテロリズム関連作品が中国では見られないということができよう。

注

- 1) 探偵事務所を開いていた探偵でも、また探偵事務所に所属する探偵でもないが、モルグ街の殺人事件を解決して以降、警察に高く評価され、警察（・警視総監）から事件解決への協力を依頼され、報酬をも受け取るようになっている。
- 2) 「推理小説通史」中島河太郎 p104 『現代推理小説大系 別巻2』 講談社 1980

『日本ミステリーの100年』山前譲 知恵の森文庫 2001 p16

- 3) 『無惨』の出版元の小説館は、『東京朝日新聞』明治二十二年九月十日の新聞広告において、『無惨』について「蓋し我國探偵小説の嚆矢たり」と謳っており、また、梅廻家かほるは序文において「日本探偵小説の嚆矢」と言っている。

『日本ミステリー小説史——黒岩涙香から松本清張へ』堀啓子 中公新書 2014 p103~p105, p111~p113

『日本推理小説辞典』中島河太郎編 東京堂出版 1985 p337~p338

- 4) この段落、「中国ミステリー史—中国推理小説120年の歴史」松川良宏
第二章 (2011年2月3日 <https://w.atwiki.jp/asianmystery/pages/108.html>)
第三章 (2011年2月3日 <https://w.atwiki.jp/asianmystery/pages/151.html>)
第四章 (2011年2月8日 <https://w.atwiki.jp/asianmystery/pages/111.html>)
第六章 (2011年2月10日 <https://w.atwiki.jp/asianmystery/pages/152.html>)
- 5) 『流氓偵探 (流氓偵探)』(『夢莉与偵探 (夢莉与偵探)』)とも。「流氓」は、ちんぴら・ならず者といった意。「偵探」は、探偵の意。「与」は、〜と、の意。)という題名のあまり有名とはいえない中国映画がある。2017年の映画で、やや喜劇っぽいタッチで描かれた作品である。民国期などの過去を舞台とした探偵ものではなく、また、『唐人街探案』シリーズのように海外を舞台とした探偵ものでもなく、今(最近)の中国(大陸)を舞台とした探偵ものの映画である。

主人公の孟豪は、私立探偵をも名乗って仕事をしているが(もっとも、「阿豪測字起名社 法師: 孟豪」と書かれた名刺を持って仕事をしている。「測字」とは文字占い。「阿豪」は、名前の「豪」を親近感をもって呼ぶ言い方。稼ぐために雑多なことをしているというところであろう。), 人のプライバシーを探る(例えば不倫・密通など。それを元に人を脅して金銭を得ることもある。), 客相手に占いをする, 盗聴器をしかけて盗聴する, 子供客相手に試験問題を予測したり代理で父母会に出たりする, パソコンの暗証番号を解読する, 近所の子供たちを使って(任務を与えて)情報を得る, など, 警察から調査を受けかねないような怪しげなことまでして稼ぎ, 生計を立てている。ある依頼人には, 詐欺師として怒鳴り込まれている。また, 事件の犯人である白文泰は調査の依頼人・萱萱に, (萱萱を孟豪から離れさせようという思惑からではあるが,) 「私はおまえが社会におけるろくでもない人間(原文: 社会上不三不四的人。阿豪のことと思われる。)と付き合っていることを知っている」と言っている。

孟豪は, 人格的にも立派な人間とは言い難いし, とうてい人前で胸を張れるようなまともな仕事をしていない。

この映画は, 最近の中国(大陸)を舞台とした作品で, 職業的な探偵(まっとうな職業とはとうてい言えないし, また, むしろ雑多な仕事をしているというべきかもしれないが。)が事件解決に大きな役割を果たす作品ではあるが, 探偵をちんぴらのようなものとして描く作品であるし, また, 探偵が特に優秀で, 無能な警察を差し置いて事件を解決する, といった作品とはなっていない。

この映画は存在しているものの, 職業的な探偵が登場する作品は, 共産党統治下の中華人民共和国においては, 極めて稀な例外としてしか存在していない。

- 6) <https://baike.baidu.com/item/%E7%A7%81%E5%AE%B6%E4%BE%A6%E6%8E%A2/81786?fr=aladdin>
私家偵探 (从事非官方民商事调查服务的人)
私家偵探指政府机关以外从事民商事调查服务的人。其中服务内容主要以财产调查取证, 全国信息调查, 人员行踪调查, 网络诈骗调查, 婚姻调查为主。
我国尚无任何法律确立私家偵探的法律地位, 因此私家偵探只是行使普通公民的合法知情权。私家偵探无法涉足刑事侦查活动, 我国法律规定只有国家机关特定工作人员, 才具有刑事案件侦查权。
- 7) <https://www.lawzsw.com/wenda/8978.html>

問 私家偵探違法吗？

律师解答：私家偵探指政府机关以外从事民商事调查服务的人。……中国的私家偵探并没有合法地位，目前还没有一家私家偵探公司获得过商部门颁发的营业执照，诉讼法中也没有规定公民个人有“侦查权”。1993年，公安部发布了《关于禁止设“私人偵探所”性质的民间机构的通知》。因为要回避与国家法律的冲突，私家偵探一直在法律的边缘行走，在夹缝中生存。）

- 8) 映画『唐人街探偵 東京MISSION』公式サイト PRODUCTION NOTE, <https://detectivechinateown-movie.asmik-ace.co.jp/>
- 9) ただし、P51～P52において述べるように、本論文で扱う「犯罪・ミステリー」のジャンルの映画であるとは見なさず、表1に載せなかった3作品が本来存在するということあるいは可能かもしれない。特に「空中猫（スカイハンター）」については、表1に載せてもよかったかもしれない。
- 10) 第十四届精神文明建设“五个一工程”（2014-2017）获奖名单」人民网/人民日报 20170928
https://baike.baidu.com/reference/20794668/4a25k7jfD0dGvcJV61ivfUbT9ehvX3mE4HaaJGZ9p3Cmf6bPKoBjVnkz1IJ_fm04fOrXPP_zs7QOA0hj1C8xCaEGvoJLIGyOquZBqYhl71yG2vOxKVEY
- 11) 「五个一工程奖名单公布《红海行动》《药神》上榜」网易娱乐 20190819 https://baike.baidu.com/reference/20411526/91bc-EsdcmI0_4DL1wUnmKxS3iri_a5Ivxl0qaIGdnLJpa1zx9myORmmMCHmpagD3sjq82Ks7bvSgztXkwaZdQJ1k27GcA4UES-ngzs8EbZDUsgLvU
「林超贤《红海行动》首支特辑曝光 投资5亿打造中国首部现代化海军电影」Mtime时光网 20170518
https://baike.baidu.com/reference/20411526/866eHVIPTAss_qGCnZlqj03p1Tq8A5dwdOxtEct4qjIW7_jsmwgukdfZKV2wQL8jr0HdlL6rGCfY5-ji40nYpPuYSvTQ1m6oTSA
- 12) CBO中国票房「空中猫」
https://baike.baidu.com/reference/20432506/6f03FqjcU9cSwJo_kl6vfmi4o38ibo8MtFmsUHWCOPolyX3WtGHUwqqsSHnCVD1ut4RISLsYfzHg
- 13) なお、同じ「特种兵归来（特殊兵归来）」シリーズでカナダを舞台とした「特种兵归来之绝地营救（特殊兵归来之绝地营救）」においても、主人公・龍衛は、少なくとも、現地当局と連絡をとり協力しつつ行動していたわけではない。ただし、この作品における犯罪は、（あまり明確には描かれていないものの、）おそらく政治的主義主張によるものではなく金銭的な目的によるものらしく、そもそもテロリズムとは言えないように思われる。